

卒業生の皆さん、おめでとうございます。平成 23 年度は、英語科 23 名、普通科 114 名、合計 137 名の皆さんが卒業証書を授与されました。これまでに、皆さんを温かく見守り、支え続け、応援して下さった保護者の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。

この 3 年間は、皆さんにとって、すべてが順調で嬉しいことばかりではなく、なぜこんな不条理と思えるようなことがあるのかとか、悲しく失意の中にあることもあったことでしょう。しかし、18 年間と言う人生を振り返ってみれば、なんと多くの人々の愛を受けてきたのでしょうか。

3・11 から早 1 年経過、原発の災い

さて、昨年の東日本大震災から、間もなく 1 年を迎えようとしています。地震と津波の被害を受けた地域は、徐々に復興に向かって動き始めているとはいえ、津波で親族をなくされた方々の心の痛みはそう簡単に短い時間で癒されることはないでしょう。この大きな災害に巻き込まれて亡くなられた方々の御冥福をお祈りしたいと思います。そしてまた、今なお仮設住宅で不自由な生活をされている方々がいらっしゃることを忘れることなく、私達も節電に努め、地球に優しい生活を実践していきましょう。

私達福島県民は、地震、津波、放射能汚染、風評被害という四重苦を体験してきました。東京電力福島第 1 原子力発電所の事故以来、3 月下旬は、福島市も放射線量が高かったため、本校も例年より早い春休みとし、また、新学期がスタートして、始業式、入学式を行った後も、交通網が不通であったため、授業の開始を 1 週間遅らせました。

学校行事も、急遽、アースデーの内容の変更をしたり、様々な行事の実施日を変更して、授業時間を確保しました。また、放射線量が高かったグラウンドを表土除去し、ヒマラヤスギなど樹木の伐採をしなければなりません。その一方で、子どもたちが外で遊べなくなったり、小さな子供達の県外避難や転出が相次ぎました。

震災の影響で、さまざまな行事が縮小されたり、延期される中、桜華祭には例年と同じくらいのお客様を迎えることができ、ほっと胸をなでおろしたものです。桜華祭では、華やかなオープニングやフィナーレ、ステージ発表、クラスの展示や部活動の発表など、皆さん一人ひとりの協力がなければ、成り立ちませんでした。

さて、ギリシア神話の中に、プロメテウスという神がいます。プロメテウスは、天上の火を盗み、人類に与えた罰として、ゼウスによって岩に鎖でつながれ、毎日ハゲワシに肝臓を食われ、ヘラクレスに助けられるまで苦しみ続けました。

ギリシア神話の現代版のように、人類は、濃縮したウランから、原子力というかつてなかったほど大きなエネルギー源を手に入れました。アメリカのマンハッタン計画で製造された原子爆弾が、広島・長崎に投下され、多くの尊い命が犠牲になり、それにもかかわらず、原子力の平和利用として、日本では、原子力発電の研究が 1960 年代からはじまりました。コストが安く、大きなエネルギーを取り出すことができること期待されてきました。また、地球の温暖化をもたらす二酸化炭素の排出がないことも原子力発電のメリットであると考えられてきました。

ところが、この原発事故も、人間が作りだしたものによって、人間が大きな災いを受けてしまっているのです。しかも、原発を廃炉にするためには、40 年以上もの歳月がかかるという事態に直面し、私たちは、今後もエネルギー源として原発に頼るべきかという問いを突きつけられています。

いまだに原発事故は収束していませんが、今後も、事故の推移を注意深く見守りながら、放射線について学び、簡素な生き方を考え実行しながら、賢明に生活してまいりましょう。

パウロの手紙・・・謙遜なイエスにつながりなさい

先ほどの聖書朗読では、使徒パウロのフィリピの教会への手紙が読まれました。その冒頭には、「主において常に喜びなさい」という言葉があります。単純に受け止めて、「主において喜びなさい」といわれても、こんなに自然災害や事故が続いた後で素直に喜べない、と言うのが本音ではないでしょうか。

フィリピは、パウロが創設した西洋の最初の教会でした。フィリピへの手紙を書いていたとき、実は、パウロは獄中にいました。パウロは宣教者として旅しながら、迫害され、殺されそうにされそうになりながらも、生涯で3回、大きな宣教旅行をし、イスラエルの民だけでなく異邦人に広く福音をのべ伝えていきました。

かつては、ユダヤ教に熱心なあまり、キリスト信者を迫害していたパウロでしたが、ダマスコへの途上で、イエスからじかに弟子として呼び出されたことによって、彼の生き方は180度転換してしまいました。パウロは、自分自身が罪深い身分にもかかわらず、こういう自分にイエスは声をかけて招いてくださったという体験をして、キリスト信者を迫害する者から、イエス・キリストの宣教者になっていきました。

「主において」とは「主に結ばれることによって」とも訳されています。パウロは、他の手紙の中で「キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受ける」(コリ8・17)とのべています。

そして、パウロはイエスの姿を、「神でありながら自分をむなしくして、僕の身分になり、謙って、死に至るまで従順だった」と表現し、あくまでも謙遜な姿勢を貫き通したイエスを賛美しています。

そこで、パウロは、フィリピの信徒への手紙を通して、自分自身の経歴やプライドに支配されることよりも、イエスにならって謙遜な態度で生きようと私たちに勧めています。

グローバル社会のなかの私…考え続ける、学び続ける力、違いを認め合う

今、高校の卒業式という一つの節目を迎えましたが、これはまた、新しいステージへの始まりの日です。普段、私達はあまり意識していませんが、生活のあらゆる面で世界とつながっています。身近なところでは、100円ショップで売られている商品とか、食料品、衣料品、電化製品、など。昨年のタイの洪水の影響によって、日本の企業にも大きな影響が出ているようです。ギリシアで金融不安が起きると世界の株式市場で株が値下がりし、為替もドル不安があると円が高騰します。このように世界は刻々と変化しているのですが、このように変化の早い社会では、今日学んだ知識は、明日には古くなってしまいます。そのため、基本知識は必要ですが、考える力や常に学び続ける力が必要となるのです。

みなさんは、近い将来、海外に出かけ、外国からの人々を迎えることもあるでしょう。その時、考え方が違う人や文化の違う人、言葉の違う人など、様々な人に出会います。その違いを拒否するのではなく、むしろ歓迎して受け入れ、考え、学び続ける事で相乗効果を発揮する事が出来るでしょう。

「それでもなお」という生き方

巣立っていく皆さんに紹介したい言葉は、「それでもなお 人を愛しなさい」という言葉です。これは、ケント・M・キースの『それでもなお、人を愛しなさい 人生の意味をみつけるための逆説の10か条』の中に出てくる言葉です。1968年当時大学生だったケント・キースは、高校生向けの小冊子「逆説の十か条」を発行しました。やがてそれは30年の年月をかけて、口コミで、コピーで、インターネットで、本人の知らない間にゆっくりと広まり世界中で愛される格言となっていきました。彼が書いたも

のが、いつしかインドにたどり着いて、マザー・テレサの「カルカッタの孤児の家の壁」にも貼られてありました。

彼は、「逆説の十か条」を一つの挑戦として書きました。その挑戦とは、仮に他の人たちがそれを良いこととして評価してくれなくても、正しいことを、よい事を、真実であることを常に実行してみませんかという挑戦です。

10の教えの中には、たとえば、「今日の善行は明日になれば忘れられてしまうだろう。それでもなお、良いことをしなさい」とか、「正直で率直なあり方はあなたを無防備にするだろう。それでもなお、正直で率直なあなたでいなさい。」などがありますが、

第1の教えに、「人は不合理で、わからず屋で、わがままな存在だ。それでもなお、人を愛しなさい」とあります。原文では、“People are illogical, unreasonable, and self-centered. Love them, anyway” とあります。直訳すれば、人は、非論理的で、気まぐれで、自分中心である。とにかく、彼らを愛しなさい、という意味です。

人からどう思われても、正しいと信じていることを実行することは勇気の要ることです。桜の聖母の生徒たちは、心優しく、思いやりがあり、親切な人がほとんどです。しかし、たとえば、将来、社会に出る皆さんが、「おはようございます」と挨拶しても、ブスツとして挨拶を返さない人がいるでしょう。面白くないですね。それでもなお、次の朝になれば、元気に挨拶をするのです。

あるいは、懸命に取り組んだ仕事が失敗したとします。上司は、あなたの努力をわかろうともせず叱責するかもしれません。傷つきますね。それでもなお、次の仕事に懸命に取り組むのです。

このように、日常の仕事の中で、人が見えても見ていなくても誠実に良いわざに励み、「それでもなお人を愛し続けること」を積み重ねることで、私達は人間として成長していくことができます。

神様の祝福がありますように

皆さんにも、人生の途上で、自分の知恵や意思が及ばないときや、選択に迷うときがあるかもしれません。しかし、私たちは、もうすでに「7つの習慣」[®]で学んだように、原則に立ち返るという道を知っています。どんなに周りの状況が悪いように思えても、より良い世界に変えていくためにはまず、どんなに小さなことであっても良いので、私から始めることです。様々な問題や壁に突き当たったとしても、それでもなお一歩前に入る勇気があたえられますように、とお祈りしています。

今年度は、震災が起こったことにより、新たな出会いもありました。桜の聖母学院で出会った多くの友人との絆を大切に、ひとりひとりの賜物を生かして、皆さんの光を世に輝かせてください。

皆さんに生命を与え、慈しみと愛をもって守り続けてきてくださった神様が、これからも皆さんを力強く導いてくださいますように、お祈りしています。

保護者の皆様へのお礼

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。この3年間、あるいは、中学高校の6年間、日常生活や学習、精神面でもお支えしていただき、誠にありがとうございました。皆様のおかげで、本日、晴れの卒業式の日を迎えられましたことを感謝し、巣立っていく卒業生と保護者の皆様のうえにも神様の豊かな祝福がありますようにお祈りし、式辞といたします。

参考文献

『それでもなお、人を愛しなさい 人生の意味を見つけるための逆説の10か条』ケント・M・キース著、大内 博訳、早川書房

『働く君に贈る25の言葉』佐々木常夫 WAVE 出版